

はほぼ欠損となった。 ^{131}I -IMP 脳血流シンチグラフィは、虚血部位などで早期像にて低下を示し後期像にて再分布を示すことはあっても、その逆は稀であるため、今回若干の文献的考察を加え報告した。

5. ^{123}I -Iomazenil による脳 benzodiazepine 受容体分布の評価

佐々木雅之 一矢 有一 桑原 康雄
吉田 毅 福村 利光 増田 康治

(九大・放)

中枢性 benzodiazepine 受容体結合薬剤である ^{123}I -Iomazenil (IMZ) の各種脳疾患における脳内分布を、脳血流、代謝と比較検討した。対象は脳血管障害 9 例 (梗塞 6 例, 脳出血 2 例, クモ膜下出血 1 例), てんかん 2 例, その他 4 例の計 15 例である。IMZ は 111~222 MBq 投与し, 3 時間後の画像を視覚的に評価した。脳血流との比較は 15 例全例で行い, 血流異常が顕著: 10 例, 同等: 5 例であった。7 例では代謝との比較を行い (酸素代謝 4 例, 糖代謝 3 例), 代謝低下が顕著: 4 例, 同等: 3 例であった。血流低下, 代謝正常の部位では IMZ は正常であった。また, 血流, 代謝ともに低下しても IMZ が正常の部位も見られた。IMZ にて脳血流, 代謝のいずれとも異なる情報が得られた。

6. 脳悪性リンパ腫に対する Ga-SPECT の有用性

重松 良典 松野 泰治
(天草中央総合病院・放)
矢野 辰志 嶋村 皓臣 (同・脳外)
植村正三郎 (天草地域医療セ・脳外)
富口 静二 高橋 睦正 (熊本大・放)

脳原発の悪性リンパ腫 3 例, 脾臓原発にて続発性の脳悪性リンパ腫 1 例を経験した。いずれの腫瘍もガリウムシンチの planar 像では描出されず, SPECT において描出された。続発性の 1 例では放射線治療にて症状の改善が得られたが, これに伴い SPECT においての腫瘍の描出も減弱化した。脳悪性リンパ腫の診断, および治療の効果判定にガリウムシンチの SPECT が有用と思われた。

7. ^{201}Tl シンチが再発と放射線脳壊死との鑑別に有用であった転移性脳腫瘍の 1 例

中村 武 辻 明德 鍋島 光子
富口 静二 中島 留美 大山 洋一
吉良 朋広 松本 政典 高橋 睦正

(熊本大・放)

^{201}Tl が腫瘍シンチとして日常診療に使用できるようになり, その有用性がさらに報告されてきているが, われわれも再発と放射線脳壊死との鑑別に有用であった転移性脳腫瘍の 1 例を経験したので報告する。

症例は 58 歳男性で, 平成 5 年 6 月に食道癌からの転移性脳腫瘍の摘出手術を受け術後 40 Gy の放射線治療を受けている。その後, 平成 6 年 11 月の MRI で不均一に造影される腫瘍性病変を認めたが, 再発と放射線脳壊死との鑑別は難しかった。 ^{201}Tl シンチでは腫瘍部分に一致して強い集積を認め, 病変部と対側正常部の counts 比 (L/N) は Early で 6.3, Delay で 5.4 と高く, 再発と診断した。後に手術にて同部に腫瘍の再発が確認された。

8. ^{123}I -MIBG 初期データの解析

土持 進作 中別府良昭 谷 淳至
中條 政敬 (鹿児島大・放)

MIBG 初期データを解析し, その有用性について検討を行った。正常者 5 例と心疾患患者 64 例に ^{123}I -MIBG 111 MBq を静注直後より 25 分間の dynamic data と 30 分および 4 時間後の static data を得た。心臓, 上縦隔に設定した関心領域内の平均カウントを用いて 25 分, 4 時間後の心臓縦隔比 (25 min-H/M, 4 hr-H/M) および 5~25 分と 30~4 時間の時間減衰補正後の心筋洗い出し率 (25 min-WR, 4 hr-WR) を算出した。25 min-WR と 4 hr-WR, 25 min-H/M と 4 hr-H/M, および 25 min-WR と 4 hr-H/M の間に有意な相関を認めた ($r=0.76, 0.61, 0.79$)。正常群と心疾患群との間で 25 min-WR, 4 hr-WR ともに有意差を認め, 正常群に比べ心疾患群では心筋からのトレーサ洗い出しが亢進していた。早期の MIBG 解析によっても心筋交感神経機能評価が可能であると示唆された。